

北上市出資法人等協働評価シート(基本情報確認用)

【社団法人・財団法人】

■1. 法人の概要

法人名称	一般財団法人北上市文化創造	担当部課名	まちづくり部生涯学習文化課
代表者名	理事長 浅田 格	設立年月日	平成15年2月3日
所在地	北上市さくら通りニ丁目1-1	電話番号	0197-61-3300
設立目的	住民に対し、質の高い芸術の鑑賞・体験の機会の提供、住民自らの創造的な文化活動への支援などを推進し、心豊かな地域社会の形成に寄与するため設立された。		
事業内容	○質の高い芸術を鑑賞・体験する機会の提供 ○住民自らによる芸術文化の創造支援及びそのための人材育成 ○芸術文化関連の情報の蓄積及び受発信 ○市の芸術文化施設の管理運営		

■2. 設立の経緯と市の関与

設立の経緯と市の関与(設立時からこれまでの経緯)	○質の高い芸術の鑑賞・体験機会の提供や文化活動の支援などの拠点として文化交流センターさくらホールが建設され、開館に合わせて、「独自の民間サービスを提供できる環境を整え、常に質の高い芸術文化の創造を継続的に推進する」として市が3千万円を出捐して法人を設立。
	○北上市文化交流センターの指定管理者として当法人を指定し、芸術文化の振興を図る事業の推進、地域文化の創造と人材育成として市民劇場、優れた芸術文化に触れる機会として青少年鑑賞事業を委託し実施している。また、当法人の経営安定と芸術文化の多様な振興を図るため、法人の人件費を一部補助している。

■3. 資本金等の状況

H27.3.31現在

資本金(基本財産)	30,000 千円	うち市出資額(出えん額)	30,000 千円	市出資等割合	100.0 %
その他の主な出資者(出えん者)	出資者(出えん者)の名称		出資等金額	出資等割合	
	①		千円	%	
	②		千円	%	
	③		千円	%	

■4. 役職員の状況

H27.3.31現在

役員数	常勤役員			非常勤役員			合計
		うち市OB	うち市派遣		うち市OB	うち市派遣	
	2	2	0	7	1	1	9 人
職員数	常勤職員			非常勤・臨時職員			合計
		うち市OB	うち市派遣		うち市OB	うち市派遣	
	12	0	0	8	0	0	20 人
役員の平均年齢		66.1 才		常勤職員の平均年齢		41.9 才	

■5. 情報公開の状況

情報公開規定の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有り	<input type="checkbox"/> 無し	ホームページの有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有り	<input type="checkbox"/> 無し
情報開示の方法	事務所に備え付け、ホームページに掲載				
ホームページアドレス	http://www.sakurahall.jp/				
ホームページでの経営状況等情報提供内容					
<input checked="" type="checkbox"/> 定款	<input checked="" type="checkbox"/> 役員名簿	<input checked="" type="checkbox"/> 事業報告	<input checked="" type="checkbox"/> 財務諸表		

北上市出資法人等協働評価シート(基本情報確認用)

【社団法人・財団法人】

単位:千円

■6. 財務状況

【正味財産増減計算書】	H24年度	H25年度	H26年度	備考
経常収益	392,608	427,722	422,671	※事業収益には「さくらホール」の利用料収入を含む。
うち基本財産運用益	96	96	133	
うち事業収益	311,925	332,867	331,395	
経常費用	379,010	418,585	411,278	
うち事業費	341,061	372,430	373,748	
うち管理費	37,949	46,156	37,530	
うち人件費	93,529	98,807	93,022	
当期経常増減額	13,597	9,136	11,394	
経常外収益	0	0	0	
経常外費用	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
税引前当期一般正味財産増減額	13,597	9,136	11,394	
法人税等	3,714	3,991	2,932	
当期一般正味財産増減額	9,884	5,145	8,461	
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
正味財産期末残高	124,222	129,367	137,828	
【貸借対照表】	H24年度	H25年度	H26年度	備考
資産合計	170,083	169,741	194,959	
負債合計	45,862	40,375	57,131	
正味財産合計	124,222	129,367	137,828	
うち指定正味財産	30,000	30,000	30,000	
【財務指標】	H24年度	H25年度	H26年度	
自己資本比率 (正味財産合計÷総資産)×100	73.0%	76.2%	70.7%	
借入金依存度 (長短期借入金÷総資産)×100	0.0%	0.0%	0.0%	
流動比率 (流動資産÷流動負債)×100	148.3%	145.7%	147.0%	
総資本経常利益率 (経常利益÷総資産)×100	8.0%	5.4%	5.8%	
総資本回転率 (売上高÷総資産)×100	183.4%	196.1%	170.0%	
人件費比率 (人件費÷経常経費)×100	24.7%	23.6%	22.6%	
公益事業比率 (公益事業÷経常費用)×100	-	-	-	

■7. 市の財政的関与の状況

単位:千円

項目	H24年度	H25年度	H26年度	備考
補助金・交付金	65,406	66,484	71,514	※市の会計年度による。 ※指定管理施設委託料は委託料を含む。 ※文化庁補助事業費については次のとおり。 H24:4,361千円(負担金。表中含まず)/H25: 13,074千円(委託料。入場料等6,907千円を文化創造から市に納入)/H26:6,849千円(補助金)
委託料	196,606	210,299	212,464	
出資金(追加額)	0	0	0	
その他(使用料等)	1,639	2,044	1,934	
合計	263,651	278,827	285,912	
損失補償契約に係る債務残高	0	0	0	
貸付金残高	0	0	0	
指定管理施設の名称	北上市文化交流センターさくらホール			

北上市出資法人等協働評価シート(基本情報確認用)

【社団法人・財団法人】

■8. 職員研修の実施状況

研修の種類及び名称	当該年度の受講者数		
	H24年度	H25年度	H26年度
自己啓発研修	11	9	7
アートマネジメント研修会	1	0	1
技術職員研修会	1	1	2
普通救命講習	22	23	22

■9. 設立目的に沿った事業の実施に有効な資格の取得状況

資格の種類及び名称	当該年度末の有資格者数		
	H24年度	H25年度	H26年度
照明技術者技能検定 1級	2	2	1
同 2級	3	3	3
第3級陸上特殊無線技士	2	2	1
第1種劇場技術者	1	1	1
学士(芸術)※音楽芸術運営学科、音楽器楽科	2	2	2

■10. 事業の実績概要

事業名称	活動実績・成果
鑑賞・体験型事業	<p>○音楽、演劇、古典芸能など様々なジャンルから12事業実施。 西本智実指揮「ロメオとジュリエッタ」(平成26年度文化庁イニシアチブ事業)、ウィーンヴィルトゥオーゼンコンサート、ファジルサイピアノコンサート、松竹大歌舞伎、立川志の輔独演会、舞台「BACK STAGE」、演劇「菊次郎とさき」、TAO DRUM ROCK、きたかみサロンコンサートシリーズを実施。</p> <p>○チケット販売枚数9,896枚、販売率73.3%、収支率84.5%</p> <p>○芸術性が高いものを、分かりやすく従来の顧客層以外にも鑑賞してもらうために、出演者による見どころ紹介やレクチャーなど関連企画を3公演で実施。</p> <p>また、世界一流の演奏家による学生対象にした楽器クリニックを開催し、26年度は5団体53人が参加した。</p>
創造・育成型事業	<p>○アウトリーチ事業、普及啓発型のレクチャー、ワークショップ、子ども対象公演、講座など13事業を実施。</p> <p>○きたかみサロン音楽会に伴うアウトリーチ、5回120名。(市内幼稚園、小学校、障がい福祉サービス事業所、小中学校特別支援学級等)</p> <p>○ダンスを活用した身体表現アウトリーチ小学校2校201人。</p> <p>○地域と協働事業としてオリジナル盆踊り「盆ジュール」をさくらホール野外特設会場にて2年連続実施。アーティストとともに作った曲にダンス振付をした「はやて」を題材にダンスの館内撮影会、吹奏楽演奏収録を行い、プロモーション映像を作成、インターネットに公開した。</p> <p>○地域のクラシック演奏家育成事業として、オーディション選出による2組の演奏家とアウトリーチプログラムをともに作り、市内2校でアウトリーチを実施。</p> <p>○第38回北上市民劇場は、脚本制作講座を経て、二子地区の民話をモチーフにした作品を上演。</p> <p>○小学生を対象に舞台芸術を体験させる年間継続の講座事業(キッズアート)を開始。延べ505人参加。</p> <p>○平成26年度文化庁劇場音楽堂等活性事業9事業が採択。</p>

北上市出資法人等協働評価シート(基本情報確認用)

【社団法人・財団法人】

<p>広告宣伝・情報受発信事業</p>	<p>○スタジオさくらと:職員がキャスターを務めるトーク形式の25分間の生放送番組としてエフエム岩手を活用し、公演告知を中心に地域情報を発信。26年度52回、通算594回放送。 ○ホームページ運営、フェイスブック、ツイッター等で最新の情報提供。ホームページ上のインターネットサービスでのチケット予約サービスを実施。平成26年度はさくらホール取扱い分チケット5,456枚中予約件数660件(約12%)。 ○情報誌さくらホールPRESS:事業や館内の情報を掲載。月ごとに8,000~1万部発行。6、10、3月は特集号として4万部発行し市内全戸配布し、芸術文化活動の啓蒙に重要な役割を担っている。 ○視察見学:普段見ることができないステージの裏側、舞台機構などの見学としてバックステージツアーを7回開催、488人参加。ほか行政視察、市内小中学校の見学を随時受け入れ、334人。</p>
<p>施設の管理運営</p>	<p>○稼働率:大ホール185日・57%(前年度比+7.2ポイント)、中ホール247日・73.3%(前年度比+9.6ポイント)、小ホール344日・97.3%(前年度比+3.3ポイント) ○利用者数計 290,741人(前年度比+10,467人)・月平均約24,000人 ○平成27年2月、来館者300万人を達成。 ○ミュージックルーム等ファクトリー稼働率 91.6%(前年度比+0.8ポイント) …他のホールにはない特徴として、ミュージックルームや大小アトリエ、スタジオなど利用者に開かれた、市民に身近な施設としてほぼ毎日利用され、多くの利用者、団体の芸術文化活動の拠点として利用されている。</p>

■11. 前回政策評価委員会評価結果への対応

平成24年度評価結果							
<p>○当法人は、その役割を十分に果たしていることが確認できるが、さらに、市の文化的特性・文化的財産としての意識を持ち、より高次の活動が展開されることを期待する。 ○「さくらホール」の管理運営主体としての当法人は十分にその役目を果たしていると評価するが、これだけの施設を活用する戦略が北上市に明確に存在するのか、十分な答えが無かったように感じる。さくらホールと同施設を運営している当法人を市の戦略の中で改めて検討していく必要がある。 ○当法人は、非常に立派な施設の指定管理を担っていることを考えると、その経営責任は重い。法人、市ともに、その経営責任の重さを、十分に理解したうえで、経営に当たる必要がある。</p>							
平成25年度市の方針							
<p>○さくらホールだからこそできる事業、市として推進すべき事業に取り組むため、鑑賞事業等の計画、決定において定例協議の場で議論し、より一層内外の評価を高められるような事業推進を図る。 ○指定管理者との役割分担に基づき、双方が責任をもってホールの経営にあたる。</p>							
平成25年度以降進捗状況							
<p>○市と法人との間での連絡を密にする協議の場を十分確保するため、合同会議を毎月開催している。 ○施設利用上の不具合が発生しないよう、施設の中長期改修計画を策定し、計画的な施設維持補修を行っている。</p>							
市の対応状況							
<input checked="" type="checkbox"/>	対応	<input type="checkbox"/>	一部対応	<input type="checkbox"/>	未対応	<input type="checkbox"/>	対応不要

北上市出資法人等協働評価シート(基本情報確認用)

【社団法人・財団法人】

■12. 市の施策との関係(これまでの活用効果及び今後の市の方針)

市の施策	<p>○北上市総合計画において、市は市民が主体となって行う芸術文化活動などの成果を発表する機会と場の提供に努めることとしている。また、さくらホールを拠点として各種芸術文化活動の情報発信を行うこととしている。</p>
これまでの活用効果	<p>○法人の民間発想の自助努力や事業展開により、さくらホールにおける自主事業等各種の公演のほか、芸術文化の体験や活動の促進、多様な情報発信などが実施されている。利用者数も順調に伸びており、昨年度において開館以来過去最多の利用人数となるなど財団設立の効果が表れている。</p> <p>○幼児から高齢者に至るまで各世代のニーズを的確に捉え、音楽、演劇、古典、舞踊など芸術全般にわたり、自由で柔軟な発想による事業展開を通じて、多くの市民が質の高い様々な芸術文化に触れる機会の拡充に努め、地域文化の創造と芸術振興に大きく寄与している。</p> <p>○積極的にアウトリーチを実施することにより、市民が芸術文化に触れやすい環境づくりを行い、芸術文化のすそ野を広げている。</p>
現在の課題	<p>○国や各種団体からの補助金、助成金を積極的に活用することにより、利益の追求のみにとらわれることなく、様々なジャンルの公演を実施しているが、各種助成等が受けられなかった場合の事業の選択と財源の確保が難しい。</p> <p>○アートファクトリーにおける多様な芸術文化活動が盛んに行われている反面、地域文化の創造と人材育成の場である市民劇場への参加者が減少している。</p>
今後の市の方針	<p>○引き続き、当市の芸術文化の振興を図る牽引役を担ってもらう。</p> <p>○鑑賞事業等の計画、決定において合同会議の場で議論しながら、引き続き内外の評価に応えるため事業推進を図る。</p> <p>○市民劇場は遠野、花巻に続き県内3番目に始まった歴史のある市民手作りの舞台である。昨年度から脚本のワークショップを開催し、テーマの選定や参加者の層に広がりを見せ始めている。今後も継続して市民が芸術文化の創造に参加できる場としていくため支援を行う。</p>